

(品目別需給編)

1 小麦

(1)国際的な小麦需給の概要（詳細は右表を参照）

<米国農務省（USDA）の見通し> 2019/20 年度

生産量 前年度比 前月比

・EU で上方修正も、ロシア、豪州等で下方修正され、前月から下方修正された。依然として、史上最高の見込み。

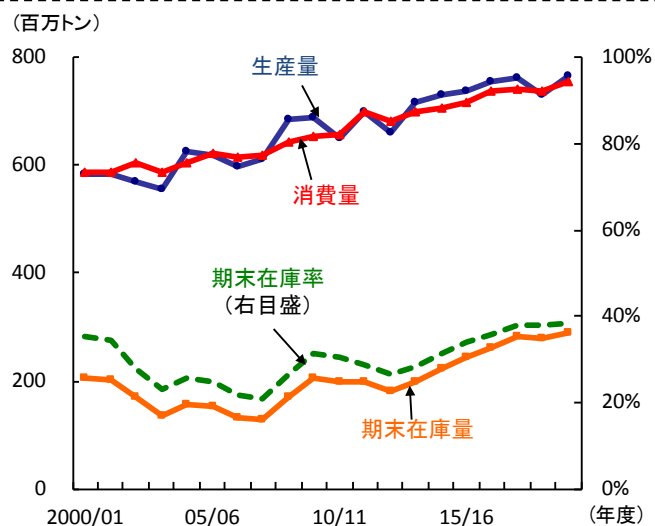
消費量 前年度比 前月比

・ウクライナ等で下方修正も、米国で上方修正され、前月から上方修正された。依然として、史上最高の見込み。

輸出量 前年度比 前月比

・ロシア等で下方修正も、EU 等で上方修正され、前月から上方修正された。

期末在庫量 前年度比 前月比



資料：USDA「PS&D」(2020.1.10)をもとに農林水産省にて作成

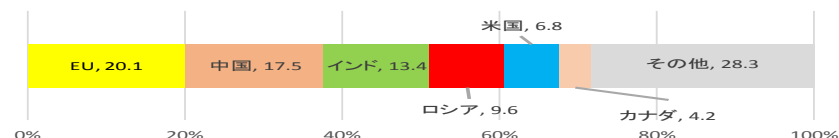
◎世界の小麦需給

(単位:百万トン)

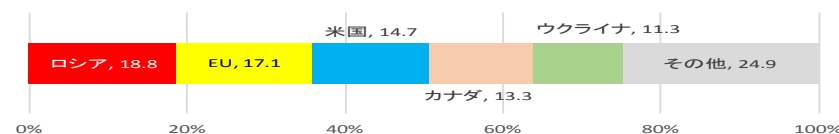
| 年 度 | 2017/18 | 2018/19 (見込み) | 2019/20 | | |
|-------|---------|------------------|---------|---------------|----------------|
| | | | 予測値 | 前月予測 からの変更 | 対前年度 増減率(%) |
| 生産量 | 762.9 | 731.5 | 764.4 | ▲ 1.0 | 4.5 |
| 消費量 | 742.5 | 736.5 | 754.4 | 0.6 | 2.4 |
| うち飼料用 | 146.4 | 139.4 | 148.4 | ▲ 0.3 | 6.4 |
| 輸出量 | 182.5 | 173.1 | 181.1 | 1.3 | 4.6 |
| 輸入量 | 180.0 | 169.9 | 178.2 | 0.6 | 4.9 |
| 期末在庫量 | 283.1 | 278.1 | 288.1 | ▲ 1.4 | 3.6 |
| 期末在庫率 | 38.1% | 37.8% | 38.2% | ▲ 0.2 | 0.4 |

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(10 January 2020)

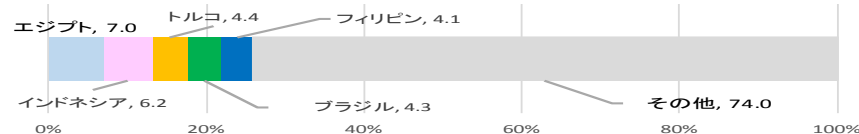
○ 2019/20 年度の世界の小麦の生産量 (764.4 百万トン) (単位：%)



○ 2019/20 年度の世界の小麦の輸出量 (181.1 百万トン)



○ 2019/20 年度の世界の小麦の輸入量 (178.2 百万トン)



(2) 国別の小麦の需給動向

< 米国 >

【生育・生産状況】米国農務省(USDA)によれば、2019/20年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、冬小麦 35.5 百万トン(対前年度比 10.1%増)、春小麦 15.3 百万トン(同 9.8%減)、デュラム小麦 1.5 百万トン(同 31.1%減)の 52.3 百万トンの見込み。

2020/21年度の冬小麦は休眠期を迎えているが、USDAによれば、作付面積は、1909年以來、過去 110 年間で最低の 12.5 百万ヘクタールとなっている。背景には、世界的な小麦生産量が潤沢で在庫が積み上がり、農家の作付意欲が他の作物と比べて低いことが推測される。

【貿易情報・その他】消費量は、飼料用需要の上方修正により、前月予測より 0.3 百万トン上方修正され、前年度より 5.6%増加し 31.7 百万トンの見込み。

輸出量は、前月予測からの変更はなく 26.5 百万トンの見込み。なお、12月の輸出検証高(注)は 1.8 百万トンで、その内訳は、メキシコ、フィリピン、日本、バングラデシュ、台湾の順、また、2019年の累計輸出検証高は 34.0 百万トンで、メキシコ(3.4 百万トン、シェア 10.0%)、フィリピン(3.1 百万トン、9.0%)、日本(2.5 百万トン、7.5%)、ナイジェリア(2.1 百万トン、6.2%)、韓国(1.3 百万トン、3.8%)の順。

12月の米国の品種別輸出価格は、平原南部での 2020/21年度冬小麦の作付け・休眠期の乾燥天候や、好調な輸出実績、米中通商協議一次合意による中国向けの輸出期待から、ハードレッドウィンター(HRW)は 14 ドル/トン、ソフトレッドウィンター(SRW)は 6 ドル/トン、ソフトホワイトウィンター(SWW)は 5 ドル/トン、ハードレッドスプリング(HRS)は 14 ドル/トン上昇して、それぞれ 237 ドル/トン、251 ドル/トン、233 ドル/トン、278 ドル/トンとなった。なお、HRSは、他の品種との価格差があり、高価格水準が継続している。

(注)12月の輸出検証高は12月12、19、26、1月2日の合計、累計検証高は2019年1月3日～2020年1月2日の合計

小麦—米国

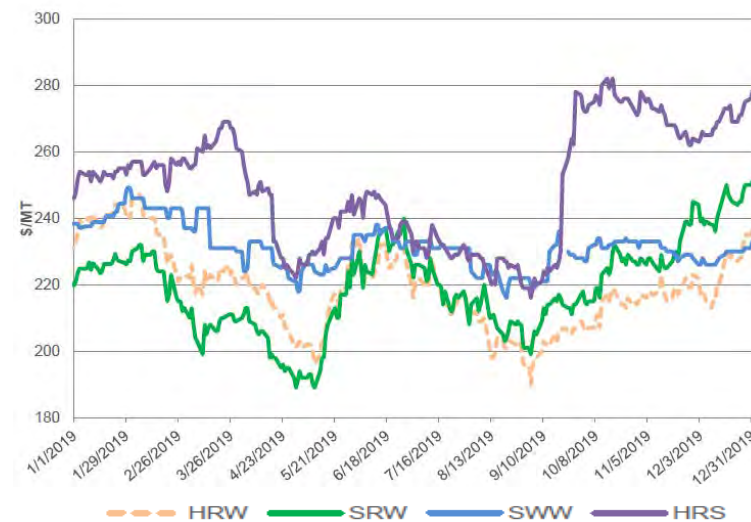
(冬小麦が全体の7割、春小麦は3割)

(単位:百万トン)

| 年 度 | 2017/18 | 2018/19 (見込み) | 2019/20 | | |
|------------|---------|------------------|---------|---------------|----------------|
| | | | 予測値 | 前月予測 からの変更 | 対前年度 増減率(%) |
| 生産量 | 47.4 | 51.3 | 52.3 | - | 1.9 |
| 消費量 | 29.3 | 30.0 | 31.7 | 0.3 | 5.6 |
| うち飼料用 | 1.3 | 2.4 | 4.1 | 0.3 | 67.2 |
| 輸出量 | 24.7 | 25.5 | 26.5 | - | 4.2 |
| 輸入量 | 4.3 | 3.7 | 2.9 | - | ▲ 22.1 |
| 期末在庫量 | 29.9 | 29.4 | 26.3 | ▲ 0.3 | ▲ 10.6 |
| 期末在庫率 | 55.5% | 53.0% | 45.1% | ▲ 0.6 | ▲ 7.9 |
| (参考) | | | | | |
| 収穫面積(百万ha) | 15.20 | 16.03 | 15.04 | - | ▲ 6.2 |
| 単収(t/ha) | 3.12 | 3.20 | 3.47 | - | 8.4 |

資料: USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」(10 January 2020)

(ドル/トン) 図 米国産小麦の品種別輸出価格の推移



資料: USDA「Grain: World Markets and Trade」(2020.1.10)

< カナダ >

【生育・生産状況】主要産地の平原三州では、前年9月下旬以降の断続的な大雨や積雪の寒冷湿潤型の天候により、収穫が遅れた。そのため、一部が未収穫となっていると見られ、品質の劣化が懸念されている。

カナダ農務農産食品省(AAFC)の1月報告(2020.1.23)によれば、生産量は、前月予測から変更なく32.3百万トン。なお、この報告は、カナダ統計局の11月調査報告(2019.12.6)をもとにしており、内訳はデュラム小麦が5.0百万トン、普通小麦が27.4百万トンの見込みとなっている。

【貿易情報・その他】AAFCによれば、輸出量は、普通小麦が前月から0.2百万トン下方修正され18.6百万トン、デュラム小麦は修正なく4.8百万トンで合計23.4百万トンの見込み。世界的な小麦の増産による輸出競争の激化から輸出量は前年度より減少する見通し。輸出価格は、米国産小麦のFOB価格の上昇に伴い、12月以降、上昇している。

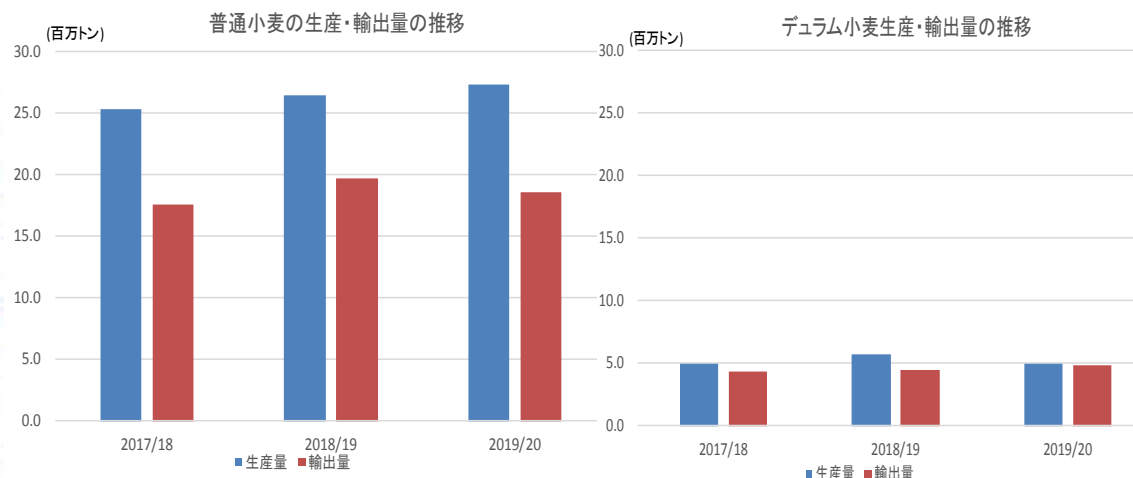
小麦－カナダ
(春小麦を主に栽培)

(単位:百万トン)

| 年 度 | 2017/18 | 2018/19 (見込み) | 2019/20 | | | |
|------------|---------|------------------|---------------|-----------|------------|--|
| | | | 予測値、()はAAFC | 前月予測からの変更 | 対前年度増減率(%) | |
| 生産量 | 30.4 | 32.2 | 32.4 (32.3) | - | 0.5 | |
| 消費量 | 9.3 | 8.9 | 9.4 (9.1) | - | 5.5 | |
| うち飼料用 | 4.2 | 3.6 | 4.4 (4.6) | - | 22.2 | |
| 輸出量 | 22.0 | 24.4 | 24.0 (23.4) | - | ▲1.6 | |
| 輸入量 | 0.5 | 0.5 | 0.5 (0.1) | - | ▲6.2 | |
| 期末在庫量 | 6.5 | 5.9 | 5.4 (5.9) | - | ▲9.3 | |
| 期末在庫率 | 20.7% | 17.8% | 16.1% (18.0%) | - | ▲1.7 | |
| (参考) | | | | | | |
| 収穫面積(百万ha) | 8.98 | 9.88 | 9.66 (9.61) | - | ▲2.2 | |
| 単収(t/ha) | 3.38 | 3.26 | 3.35 (3.36) | - | 2.8 | |

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(10 January 2020)
AAFC 「Outlook For Principal Field Crops」(23 January 2020)

小麦主要輸出国の輸出価格の推移



資料：AAFC「Outlook for Principal Field Crops」(2020.1.23)をもとに農林水産省で作成。

< 中国 >

【生育・生産状況】2019/20年度の小麦の収穫は終了した。前年12月6日に公表された中国国家统计局のデータによれば、生産量予測は、冬小麦・春小麦合計で133.6百万トンの見込み。華北平原の地下水利用地域の一部で作付けを制限したため、収穫面積は減少も、天候に恵まれ単収が前年度を上回ったことが要因。

中国中央气象台によれば、2020/21年度の冬小麦は、1月上旬現在、概ね良好な状態で休眠期に入っている。

また、全国の冬小麦の一、二類(※)の比率はそれぞれ20%、79%となっている。

【貿易情報・その他】中国海関統計によれば、11月の小麦輸入量は10月に比べ1.7倍の42.6万トンとなった。この結果、2019年1月から11月までの小麦の輸入量は、2.7百万トンとなっており、内訳はカナダが1.6百万トン、カザフスタン0.4百万トン、フランス0.3百万トン等。

< EU >

【生育・生産状況】USDAによれば、2019/20年度の前月予測は、各国政府から報告により単収が引き上げられたため、前月予測から0.5百万トン上方修正され、154.0百万トンの見込み。

2020/21年度の冬小麦は休眠期に入っている。

【貿易情報・その他】輸出価格が他の輸出国と比較して競争力があることから、輸出量は前月予測から2.0百万トン上方修正され、31.0百万トンとなる見込み。

なお、フランスでは、鉄道職員の年金改革に関連したフランス国鉄等のストライキが前年12月上旬から断続的に発生している。主要な輸出港や飼料製造業者等への穀物輸送が影響を受けているとみられ、今後の状況について注視が必要である。

小麦—中国（冬小麦を主に栽培）

(単位:百万トン)

| 年 度 | 2017/18 | 2018/19 (見込み) | 2019/20 | | | |
|------------|---------|------------------|----------------|---------------|----------------|--|
| | | | 予測値、()はIGC | 前月予測 からの変更 | 対前年度 増減率(%) | |
| 生産量 | 134.3 | 131.4 | 133.6 (132.0) | - | 1.6 | |
| 消費量 | 121.0 | 125.0 | 128.0 (128.7) | - | 2.4 | |
| うち飼料用 | 17.5 | 20.0 | 21.0 (20.8) | - | 5.0 | |
| 輸 出 量 | 1.0 | 1.0 | 1.1 (1.2) | - | 8.9 | |
| 輸 入 量 | 3.9 | 3.2 | 3.2 (3.6) | - | 1.6 | |
| 期末在庫量 | 131.2 | 139.8 | 147.5 (127.1) | - | 5.5 | |
| 期末在庫率 | 107.5% | 110.9% | 114.2% (97.9%) | - | 3.3 | |
| (参考) | | | | | | |
| 収穫面積(百万ha) | 24.51 | 24.27 | 23.73 (24.00) | - | ▲ 2.2 | |
| 単収(t/ha) | 5.48 | 5.42 | 5.63 (5.50) | - | 3.9 | |

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(10 January 2020)
IGC 「Grain Market Report」(22 November 2019)

※ 一類苗：生育が正常な苗 二類苗：通常の苗よりやや小さい苗
三類苗：病気の苗、弱い苗

小麦—EU

(冬小麦を主に栽培)

(単位:百万トン)

| 年 度 | 2017/18 | 2018/19 (見込み) | 2019/20 | | | |
|------------|---------|------------------|---------------|---------------|----------------|--|
| | | | 予測値、()はEU | 前月予測 からの変更 | 対前年度 増減率(%) | |
| 生産量 | 151.1 | 136.9 | 154.0 (154.9) | 0.5 | 12.5 | |
| 消費量 | 130.4 | 123.2 | 127.5 (127.6) | - | 3.5 | |
| うち飼料用 | 58.0 | 52.0 | 56.0 (53.4) | - | 7.7 | |
| 輸 出 量 | 23.4 | 23.3 | 31.0 (28.9) | 2.0 | 33.0 | |
| 輸 入 量 | 5.8 | 5.8 | 5.3 (5.1) | ▲ 0.2 | ▲ 8.0 | |
| 期末在庫量 | 13.9 | 10.0 | 10.8 (17.8) | ▲ 1.7 | 8.0 | |
| 期末在庫率 | 9.0% | 6.8% | 6.8% (11.4%) | ▲ 1.2 | ▲ 0.0 | |
| (参考) | | | | | | |
| 収穫面積(百万ha) | 26.16 | 25.58 | 26.07 (26.21) | ▲ 0.01 | 1.9 | |
| 単収(t/ha) | 5.78 | 5.35 | 5.91 (5.91) | 0.02 | 10.5 | |

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
USDA 「PS&D」(10 January 2020)
EU 「Balance Sheets For Cereals and Oilseeds and Rice」(19 December 2019)

< ロシア >

【生育・生産状況】USDAによれば、ロシア政府の統計資料により前月予測から1.0百万トン下方修正され、73.5百万トンとなり、前年度を2.5%上回る見込み。前月予測からの変更は、冬小麦の単収が引き下げられたことによる。生産量の内訳は、冬小麦が54.5百万トン、春小麦が19.0百万トン。なお、冬小麦は小麦全体の収穫面積の56%を占め、生産量は74%を占めている。

なお、ロシア連邦統計庁のデータ(2020.1.13)によれば、小麦の収穫量は前年度より3.0%増の74.3百万トン。収穫面積は27.5百万ヘクタール(対前年度3.8%増)で単収は2.7トン/ヘクタール(対前年度2.5%増)となった。

12月時点の2020/21年度の冬小麦は、ロシア・ヨーロッパ部では、概ね良好に休眠期を迎えている。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2019/20年度の輸出量は、生産量の下方修正に伴い、前月予測より0.5百万トン下方修正されたが、史上第3位の34.0百万トンとなる見込み。なお、ロシア農業省は、1月13日に2020年1月～6月の小麦を含む非課税の穀物輸出枠を20.0百万トンにする省令案を作成し、パブリックコメントにかけている。

写真：ロシア 中央連邦管区 ボロネジ州の小麦圃場(1月8日撮影)

良好に生育。降雪が少なく、今後、冬枯れから保護するスノーカバーが期待される。

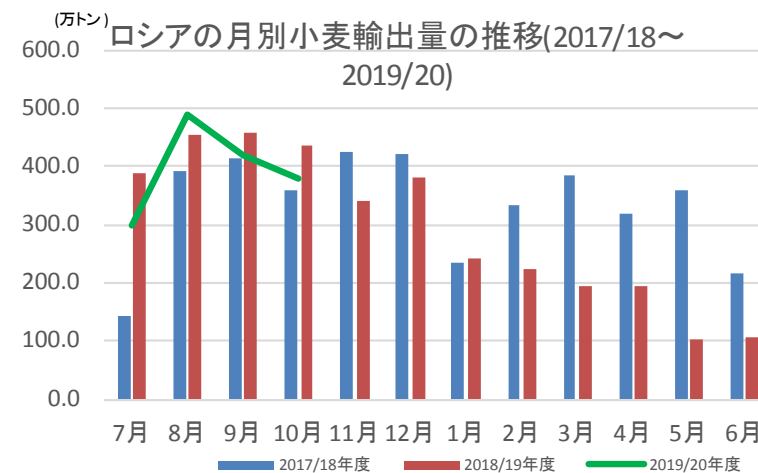
小麦－ロシア

(主産地の欧州部で冬小麦、シベリアで春小麦を栽培)

(単位:百万トン)

| 年 度 | 2017/18 | 2018/19 (見込み) | 2019/20 | | | |
|------------|---------|------------------|-------------|---------|---------------|----------------|
| | | | 予測値、()はIGC | | 前月予測 からの変更 | 対前年度 増減率(%) |
| 生産量 | 85.2 | 71.7 | 73.5 | (74.5) | ▲ 1.0 | 2.5 |
| 消費量 | 43.0 | 40.5 | 39.5 | (40.6) | - | ▲ 2.5 |
| うち飼料用 | 20.0 | 18.0 | 17.0 | (17.4) | - | ▲ 5.6 |
| 輸 出 量 | 41.4 | 35.8 | 34.0 | (34.2) | ▲ 1.0 | ▲ 5.1 |
| 輸 入 量 | 0.5 | 0.5 | 0.5 | (0.3) | - | 6.7 |
| 期末在庫量 | 12.0 | 7.8 | 8.3 | (10.0) | - | 6.0 |
| 期末在庫率 | 14.2% | 10.2% | 11.3% | (13.4%) | 0.2 | 1.0 |
| (参考) | | | | | | |
| 収穫面積(百万ha) | 27.37 | 26.34 | 27.20 | (27.30) | - | 3.3 |
| 単収(t/ha) | 3.11 | 2.72 | 2.70 | (2.73) | ▲ 0.04 | ▲ 0.7 |

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(10 January 2020)
IGC 「Grain Market Report」(22 November 2019)



資料：ロシア税関統計をもとに農林水産省で作成

<豪州>

【生育・生産状況】12月末で収穫は概ね終了した。

2019/20年度の生産量は、前月予測から0.5百万トン下方修正され、干ばつの影響のあった前年度(17.3百万トン)を下回る、2007/08年度以来12年ぶりの低水準の15.6百万トンの見込み。下方修正は5ヶ月連続となっている。乾燥により単収が0.05トン/ヘクタール下方修正された。

豪州農業資源経済科学局(ABARES) (2019.12.3)によれば、2019/20年度の実績は、15.9百万トンの見込み。主要生産州5州の生産予測量を5年平均と比べると、5州のうち4州で平均を下回っており、内訳は生産量の最も多いWA州で対前年度33.1%減(8.97→6.00百万トン)、NSW州で61.9%減(5.98→2.28百万トン)、SA州で18.3%減(4.28→3.50百万トン)、QLD州で57.7%減(0.99→0.42百万トン)である。また、同じく、主要5州全体の収穫面積と単収を同平均と比べると収穫面積は11.2%の減少にもかかわらず、単収は23.5%の減少である。

【貿易情報・その他】輸出量は、生産量予測の下方修正により、前月予測より0.2百万トン下方修正され8.2百万トンの見込み。なお、干ばつ状況悪化の影響で豪州の輸出価格は9月に再び上昇したのち、11月までほぼ横ばいで高止まり、更なる減産見通しから12月には上昇した(P3グラフ参照)。

小麦—豪州 (冬小麦を主に栽培)

(単位:百万トン)

| 年度 | 2017/18 | 2018/19 (見込み) | 2019/20 | | |
|-------|---------|------------------|---------------|---------------|----------------|
| | | | 予測値、()はIGC | 前月予測 からの変更 | 対前年度 増減率(%) |
| 生産量 | 20.9 | 17.3 | 15.6 (17.0) | ▲ 0.5 | ▲ 9.8 |
| 消費量 | 7.5 | 9.2 | 8.7 (8.6) | - | ▲ 5.4 |
| うち飼料用 | 4.0 | 5.7 | 5.2 (5.0) | - | ▲ 8.8 |
| 輸出量 | 13.9 | 9.0 | 8.2 (9.5) | ▲ 0.2 | ▲ 9.0 |
| 輸入量 | 0.2 | 0.4 | 0.6 (0.5) | 0.1 | 52.8 |
| 期末在庫量 | 5.5 | 5.0 | 4.2 (4.4) | ▲ 0.2 | ▲ 15.1 |
| 期末在庫率 | 25.8% | 27.2% | 24.9% (24.5%) | ▲ 0.9 | ▲ 2.3 |

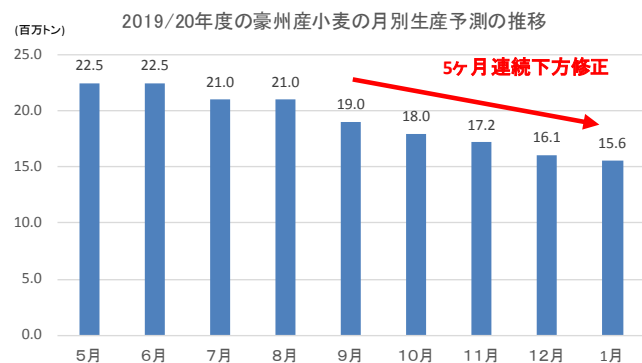
(参考)

| | | | | | |
|-------------|-------|-------|---------------|--------|-------|
| 収穫面積(百万ha)※ | 10.92 | 10.16 | 10.10 (10.40) | - | ▲ 0.6 |
| 単収(t/ha) | 1.92 | 1.70 | 1.54 (1.63) | ▲ 0.05 | ▲ 9.4 |

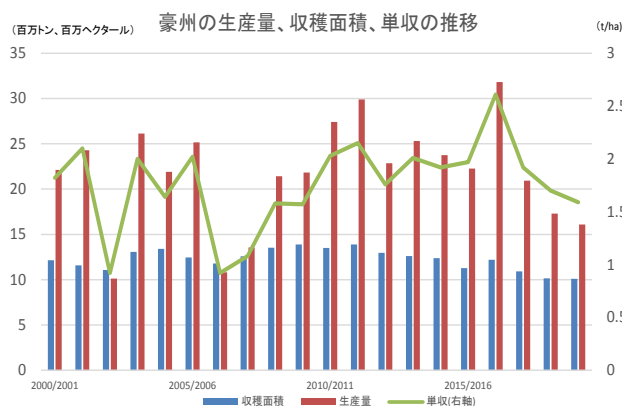
資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(10 January 2020)
IGC 「Grain Market Report」(22 November 2019)

(注)豪州の小麦生産主要5州の略称

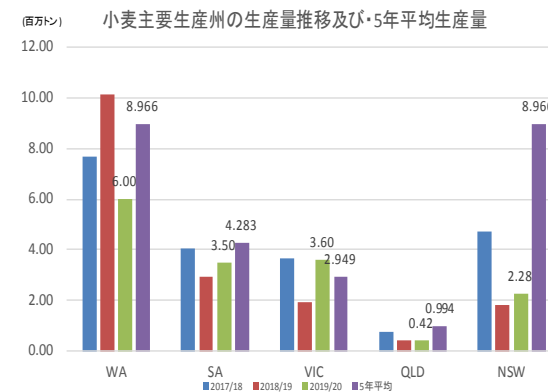
WA州: ウェスタンオーストラリア州 SA州: サウスオーストラリア州
NAW州: ニューサウスウェールズ州 VIC州: ビクトリア州
QLD州: クイーンズランド州



資料: USDA「WASDE」(2020.1.10)をもとに農林水産省で作成。



資料: USDA「PS&D」(2020.1.10)をもとに農林水産省で作成。



資料: ABERAS「Crop Report」(2019.12.3)をもとに農林水産省で作成。

2 とうもろこし

(1) 国際的な需給の概要 (詳細は右表を参照)

<米国農務省 (USDA) の見通し>

2019/20 年度

生産量 前年度比 ↓ 前月比 ↑

・米国、ロシア等で上方修正により、前月から上方修正された。

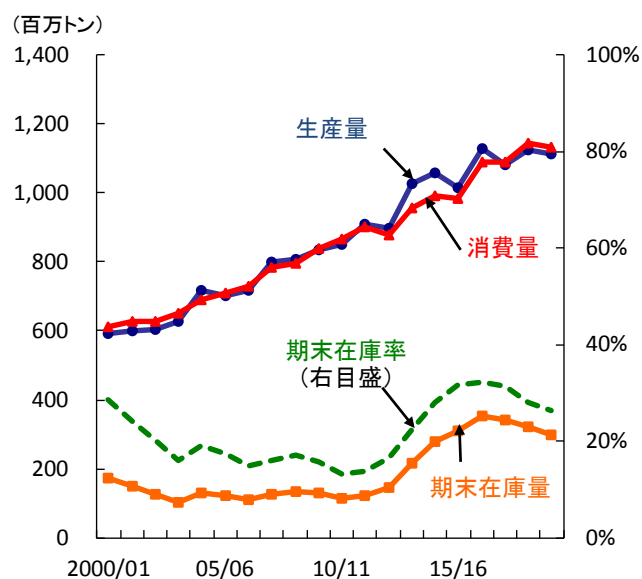
消費量 前年度比 ↓ 前月比 ↑

・米国、中国等で上方修正により、前月から上方修正された。

輸出量 前年度比 ↓ 前月比 ↓

・ウクライナ、EU で上方修正も、米国で下方修正により、前月から下方修正された。

期末在庫量 前年度比 ↓ 前月比 ↓



資料：USDA「FPS&D」(2020.1.10)をもとに農林水産省にて作成

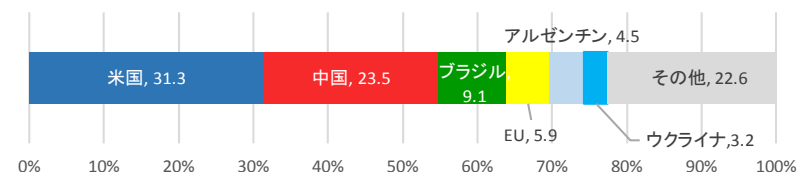
◎世界のとうもろこし需給

(単位:百万トン)

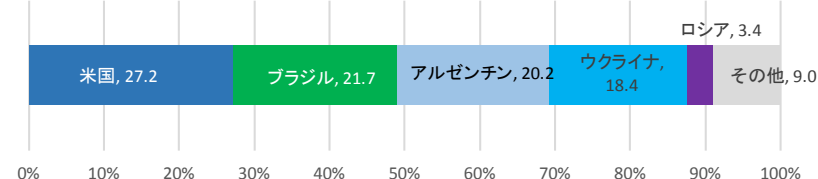
| 年 度 | 2017/18 | 2018/19 (見込み) | 2019/20 | | |
|-------|---------|------------------|---------|---------------|----------------|
| | | | 予測値 | 前月予測から の変更 | 対前年度 増減率(%) |
| 生産量 | 1,079.9 | 1,122.5 | 1,110.8 | 2.2 | ▲ 1.0 |
| 消費量 | 1,090.4 | 1,143.4 | 1,133.4 | 6.2 | ▲ 0.9 |
| うち飼料用 | 672.3 | 700.6 | 703.9 | 7.6 | 0.5 |
| 輸出量 | 148.2 | 181.4 | 165.6 | ▲ 1.0 | ▲ 8.7 |
| 輸入量 | 149.9 | 162.8 | 167.4 | ▲ 0.1 | 2.9 |
| 期末在庫量 | 341.3 | 320.4 | 297.8 | ▲ 2.8 | ▲ 7.0 |
| 期末在庫率 | 31.3% | 28.0% | 26.3% | ▲ 0.4 | ▲ 1.7 |

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(10 January 2020)

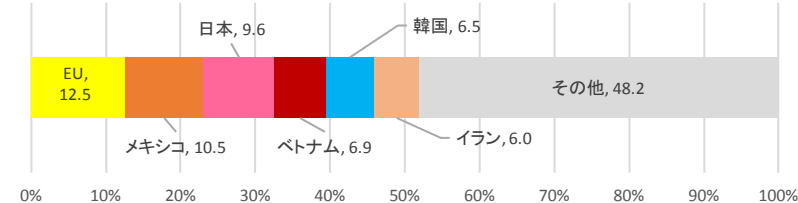
○ 2019/20 年度 世界のとうもろこしの生産量(1,110.8百万トン) (単位:%)



○ 2019/20 年度 世界のとうもろこしの輸出量(165.6百万トン)



○ 2019/20 年度 世界のとうもろこしの輸入量(167.4百万トン)



(2) 国別のとうもろこしの需給動向

< 米国 >

【生育・生産状況】前年3月から6月までの降雨過多の影響により、作付け、生育に遅れが生じた。中西部の北部では収穫されるべきとうもろこしの一部が圃場に残された状況。

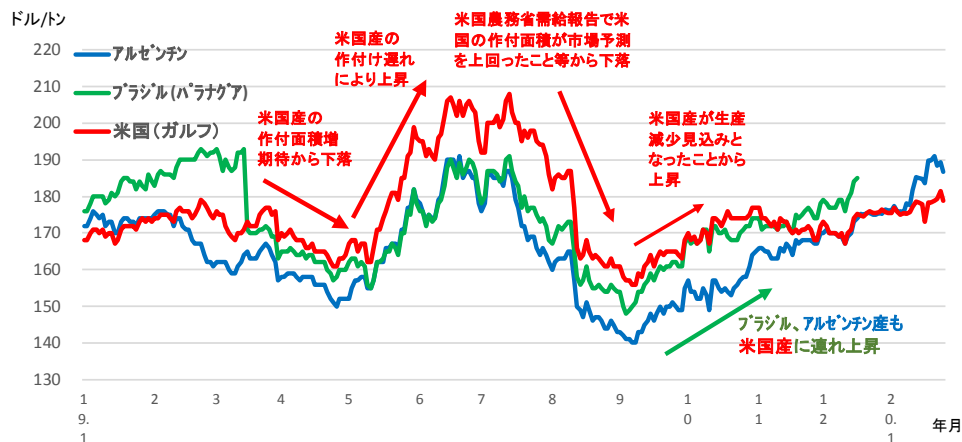
生産量は、収穫面積が下方修正されたものの、単収が上方修正されたことから前月予測から0.8百万トン上方修正され、前年度比4.5%減の347.8百万トンの見通し。

【需要動向】USDAによれば、2019/20年度の消費量は、前年9月から11月の飼料消費増を反映し前月予測から5.8百万トン上方修正され、前年度比0.6%増の312.3百万トン。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2019/20年度の輸出货量は、前年12月の出荷ペースの減速と1月上旬時点の低調な販売高を反映し、前月予測から1.9百万トン下方修正され、前年度比14.0%減の45.1百万トンの見込み。なお、輸出検証高(2019年1月3日～2020年1月2日)は、37.5百万トン(右下表参照)。

直近の輸出価格は、1月中旬の米国農務省需給報告及び米中通商協議の第1次合意の内容を市場関係者が弱材料と捉えたことから、ほぼ横ばいで推移。

図：米国、ブラジル、アルゼンチンのとうもろこし輸出価格 (FOB) の推移



資料：IGCのデータをもとに農林水産省にて作成

とうもろこし—米国

(単位:百万トン)

| 年度 | 2017/18 | 2018/19 (見込み) | 2019/20 | | |
|------------|---------|------------------|---------|---------------|----------------|
| | | | 予測値 | 前月予測 からの変更 | 対前年度 増減率(%) |
| 生産量 | 371.1 | 364.3 | 347.8 | 0.8 | ▲ 4.5 |
| 消費量 | 314.0 | 310.5 | 312.3 | 5.8 | 0.6 |
| うち飼料用 | 134.7 | 138.0 | 140.3 | 6.3 | 1.7 |
| エタノール用等 | 142.4 | 136.6 | 136.5 | - | ▲ 0.0 |
| 輸出货量 | 61.9 | 52.5 | 45.1 | ▲ 1.9 | ▲ 14.0 |
| 輸入量 | 0.9 | 0.7 | 1.3 | - | 78.9 |
| 期末在庫量 | 54.4 | 56.4 | 48.1 | ▲ 0.5 | ▲ 14.8 |
| 期末在庫率 | 14.5% | 15.5% | 13.4% | ▲ 0.3 | ▲ 2.1 |
| (参考) | | | | | |
| 収穫面積(百万ha) | 33.48 | 32.89 | 32.98 | ▲ 0.13 | 0.3 |
| 単収(t/ha) | 11.08 | 11.07 | 10.55 | 0.07 | ▲ 4.7 |

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(10 January 2020)

表：米国のとうもろこし輸出先国別輸出货量（輸出検証高）(万トン)

| | 国名 | 輸出検証高 | | |
|---|-------|---------|-------|-------|
| | | 2019年累計 | 11月 | 12月 |
| 1 | メキシコ | 1287.3 | 144.4 | 84.1 |
| 2 | 日本 | 1038.6 | 37.6 | 48.7 |
| 3 | コロンビア | 388.2 | 44.8 | 27.5 |
| | その他 | 1038.0 | 50.2 | 35.8 |
| | 計 | 3,752.2 | 277.1 | 196.2 |

注1：12月の輸出検証高は、12月12,19,26日及び2020年1月2日の計

注2：累積輸出検証高は、2019年1月3日～2020年1月2日の合計

出典：USDA Federal Grain Inspection Service

< ブラジル >

【生育・生産状況】前年12月以降も中部・南部主産地で降雨に恵まれ、夏とうもろこしは、パラナ州、リオグラデドスル州等で順調に生育期を迎えている。

USDAによれば、2019/20年度の生産量は、前月予測から変更はなく101.0百万トンの見込み。

また、ブラジル食料供給公社(Conab)月例報告(2020.1.10)によれば、2019/20年度の夏とうもろこしは、作付面積の増加、単収の向上により、生産量は前年度より3.8%増の26.6百万トンの見込み。一方、大豆収穫後に作付けする冬とうもろこしの生産量は72.1百万トンが見込まれ、合計では98.7百万トンと前年度(100.0百万トン)より1.3%減少する見込み。(P.17大豆-ブラジルのクロープカレンダー参照)。

【需給状況】USDAによれば、2019/20年度の消費量は、前月予測から変更はなく66.0百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2019/20年度の輸出量は、前月予測から変更なく36.0百万トンが見込まれ、輸出シェアは世界第2位を維持。(図参照)。

ブラジル貿易統計によると、12月の輸出量は4.4百万トンで、2019年の輸出量累計は、43.3百万トンとなり、前年同期の1.8倍となっている。内訳は、1位が日本6.9百万トン、2位がイラン5.4百万トン、3位がベトナム4.0百万トンとなっている。

一方、国内のエタノール向け需要の増加に伴い、隣国パラグアイからの輸入が増加しており、2019年の輸入量累計は1.5百万トンと前年同期比1.6倍。

とうもろこし-ブラジル

(大豆収穫後に栽培する冬とうもろこしが7割を占め、夏とうもろこしは3割)

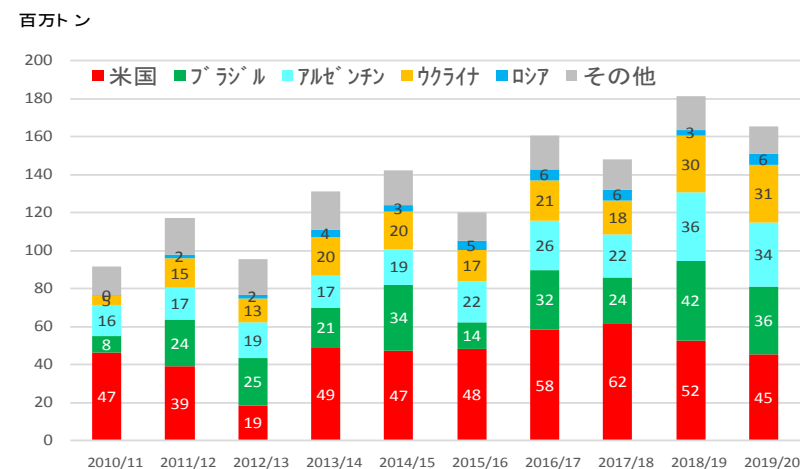
(単位:百万トン)

| 年 度 | 2017/18 | 2018/19 (見込み) | 2019/20 | | |
|------------|---------|------------------|---------------|---------------|----------------|
| | | | 予測値、()はIGC | 前月予測 からの変更 | 対前年度 増減率(%) |
| 生産量 | 82.0 | 101.0 | 101.0 (101.0) | - | - |
| 消費量 | 63.5 | 65.2 | 66.0 (67.7) | - | 1.2 |
| うち飼料用 | 54.0 | 55.2 | 56.0 (53.5) | - | 1.4 |
| 輸 出 量 | 24.2 | 42.0 | 36.0 (35.5) | - | ▲ 14.3 |
| 輸 入 量 | 0.9 | 1.5 | 1.0 (0.9) | - | ▲ 33.3 |
| 期末在庫量 | 9.3 | 4.6 | 4.6 (4.7) | ▲ 0.5 | - |
| 期末在庫率 | 10.6% | 4.3% | 4.5% (4.6%) | ▲ 0.5 | 0.2 |
| (参考) | | | | | |
| 収穫面積(百万ha) | 16.60 | 17.50 | 18.10 (17.80) | - | 3.4 |
| 単収(t/ha) | 4.94 | 5.77 | 5.58 (5.67) | - | ▲ 3.3 |

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(10 January 2020)
IGC 「Grain Market Report」(21 November 2019)

図：世界のとうもろこし輸出国の輸出量の推移

近年、米国のシェアが低下、ブラジルがシェアを拡大



資料: USDA 「PS&D」(2020.1.10)のデータをもとに農林水産省にて作成

< アルゼンチン >

【生育・生産状況】1月下旬にかけての降雨により、中央部から北西部の乾燥していた地域の生育に恩恵をもたらした。ブエノスアイレス穀物取引所週報(2020.1.23)によれば、作付進捗率は94.7%となっている。作付予定面積は、前年度並の6.3百万ヘクタールの見通し。なお、USDAによれば、現在作付け中の2019/20年度の生産量は、前月予測から変更はなく、前年度比2.0%減の50.0百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2019/20年度の輸出量は、前月予測から変更はなく、前年度比6.9%減の33.5百万トンの見込み。

アルゼンチン国家統計局によれば、2019年11月の輸出量は2.9百万トンで、年間の累計では34.3百万トンとなり、前年同期の1.6倍となった。内訳は、1位がベトナム7.4百万トン、2位がアルジェリア3.6百万トン、3位がエジプト2.7百万トン。なお、フェルナンデス新政権は、財政赤字の改善のため、2019年12月14日、穀物等に課している輸出税の引き上げを決定した。さらに、12月23日には輸出税を再度引き上げる内容を含む「社会連帯・生産性回復法」を施行した。この結果、とうもろこしの輸出税は、以前の約7%から12%、さらに15%へ引き上げられた。

< 中国 >

【生育・生産状況】11月に概ね収穫が終了した。前年12月6日に公表された中国国家統計局のデータによれば、大豆への作付け転換により作付面積が41.3百万ヘクタールと前年度比2.0%減少するものの、天候に恵まれ単収が3.4%増加し史上最高の6.3トン/ヘクタールとなったことから、生産量は前年度比1.3%増の260.8百万トンの見込み。

【需給状況】USDAによれば、2019/20年度の消費量は、前月予測から飼料用需要の上方修正により上方修正され、前年度比1.8%増の279.0百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】米中通商摩擦の影響から2018年7月から米国産とうもろこし輸入には25%の追加関税が賦課されている。なお、2019年12月15日以降、さらに賦課される予定であった追加関税10%については、1月15日の一次合意署名により見送られた。

中国の貿易統計によれば、2019年の11月の輸入量は10万トンで、うち6万トンがウクライナ産と最大のシェアを占める。なお、2019年1~11月の累計輸入量は4.0百万トンで、内訳は、ウクライナ産が3.6百万トン(88%)、米国産が0.3百万トン(6%)である。

とうもろこし-アルゼンチン

(単位:百万トン)

| 年 度 | 2017/18 | 2018/19 (見込み) | 2019/20 | | | |
|------------|---------|------------------|--------------|---------------|----------------|--|
| | | | 予測値、()はIGC | 前月予測 からの変更 | 対前年度 増減率(%) | |
| 生産量 | 32.0 | 51.0 | 50.0 (53.1) | - | ▲ 2.0 | |
| 消費量 | 12.4 | 13.8 | 15.0 (22.4) | - | 8.7 | |
| うち飼料用 | 8.5 | 9.7 | 10.3 (17.5) | - | 6.2 | |
| 輸 出 量 | 22.5 | 36.0 | 33.5 (32.0) | - | ▲ 6.9 | |
| 輸 入 量 | 0.0 | 0.0 | 0.0 (0.0) | - | - | |
| 期末在庫量 | 2.4 | 3.6 | 5.1 (4.8) | - | 41.8 | |
| 期末在庫率 | 6.9% | 7.2% | 10.6% (8.8%) | - | 3.3 | |
| (参考) | | | | | | |
| 収穫面積(百万ha) | 5.20 | 6.10 | 6.10 (7.10) | - | - | |
| 単収(t/ha) | 6.15 | 8.36 | 8.20 (7.47) | - | ▲ 1.9 | |

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(10 January 2020)
IGC 「Grain Market Report」(21 November 2019)

とうもろこし-中国

(単位:百万トン)

| 年 度 | 2017/18 | 2018/19 (見込み) | 2019/20 | | | |
|------------|---------|------------------|---------------|---------------|----------------|--|
| | | | 予測値、()はIGC | 前月予測 からの変更 | 対前年度 増減率(%) | |
| 生産量 | 259.1 | 257.3 | 260.8 (255.4) | - | 1.3 | |
| 消費量 | 263.0 | 274.0 | 279.0 (281.6) | 1.0 | 1.8 | |
| うち飼料用 | 187.0 | 191.0 | 190.0 (175.0) | 1.0 | ▲ 0.5 | |
| 輸 出 量 | 0.0 | 0.0 | 0.0 (0.1) | - | - | |
| 輸 入 量 | 3.5 | 4.5 | 7.0 (5.0) | - | 56.3 | |
| 期末在庫量 | 222.5 | 210.3 | 199.1 (183.2) | ▲ 2.0 | ▲ 5.3 | |
| 期末在庫率 | 84.6% | 76.8% | 71.3% (65.0%) | ▲ 1.0 | ▲ 5.4 | |
| (参考) | | | | | | |
| 収穫面積(百万ha) | 42.40 | 42.13 | 41.28 (41.53) | - | ▲ 2.0 | |
| 単収(t/ha) | 6.11 | 6.11 | 6.32 (6.15) | - | 3.4 | |

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(10 January 2020)
IGC 「Grain Market Report」(21 November 2019)

3 米

(1) 国際的な米需給の概要 (詳細は右表を参照)

<米国農務省 (USDA) の見通し>

2019/20 年度

生産量 前年度比 ↓ 前月比 ↓

・タイ等で下方修正され、前月から下方修正された。

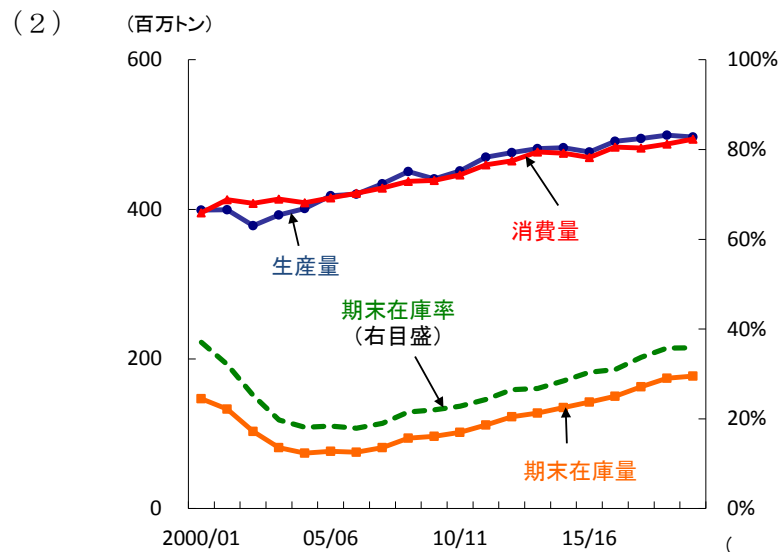
消費量 前年度比 ↑ 前月比 ↑

・インドネシア等で下方修正も、インド等で上方修正され、前月から上方修正された。

輸出量 前年度比 ↑ 前月比 ↓

・パキスタン等で上方修正も、タイで下方修正され、前月から下方修正された。

期末在庫量 前年度比 ↑ 前月比 ↓



資料：USDA「PS&D」(2020.1.10)をもとに農林水産省にて作成

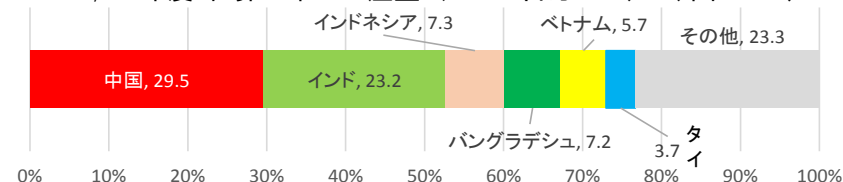
◎世界の米需給

(単位:百万精米トン)

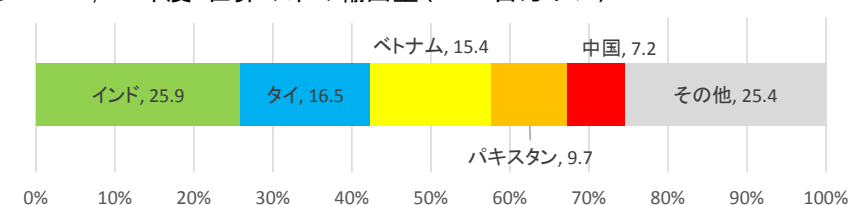
| 年 度 | 2017/18 | 2018/19 (見込み) | 2019/20 | | |
|-------|---------|------------------|---------|---------------|----------------|
| | | | 予測値 | 前月予測 からの変更 | 対前年度 増減率(%) |
| 生産量 | 494.8 | 499.2 | 496.7 | ▲ 1.7 | ▲ 0.5 |
| 消費量 | 482.1 | 487.4 | 494.0 | 0.2 | 1.4 |
| 輸出量 | 47.2 | 44.1 | 45.6 | ▲ 0.1 | 3.3 |
| 輸入量 | 46.7 | 43.5 | 43.1 | ▲ 0.4 | ▲ 0.8 |
| 期末在庫量 | 162.6 | 174.4 | 177.1 | ▲ 0.8 | 1.5 |
| 期末在庫率 | 33.7% | 35.8% | 35.8% | ▲ 0.2 | 0.1 |

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(10 January 2020)

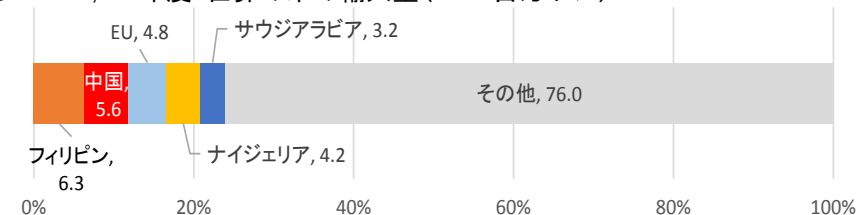
○ 2019/20 年度 世界の米の生産量 (496.7 百万トン) (単位: %)



○ 2019/20 年度 世界の米の輸出量 (45.6 百万トン)



○ 2019/20 年度 世界の米の輸入量 (43.1 百万トン)



(2) 国別の米の需給動向

< 米国 >

【生産動向】12月上旬までに、収穫は全米で終了した。

USDAによれば、生産量は、単収の下方修正から、前月予測を0.1百万精米トン下方修正され、対前年度比17.6%減の5.9百万精米トンの見込み。このうち、中・短粒種の生産量は2.7百万もみトンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、輸出量は、中・短粒種の輸出の減少はあるものの、長粒種の輸出が伸びていることから、対前年度4.7%増の3.1百万精米トンの見込み。輸入量は、対前年度4.3%増の1.0百万精米トンの見込み。

米—米国

主に中・短粒はカリフォルニア、長粒はミシシッピ川沿いで栽培
カリフォルニア州の全米の米生産に占める生産シェアは約2割

(単位:百万精米トン)

| 年 度 | 2017/18 | 2018/19 (見込み) | 2019/20 | | |
|------------|---------|------------------|---------|---------------|----------------|
| | | | 予測値 | 前月予測 からの変更 | 対前年度 増減率(%) |
| 生産量 | 5.7 | 7.1 | 5.9 | ▲ 0.1 | ▲ 17.6 |
| 消費量 | 4.3 | 4.6 | 4.2 | 0.1 | ▲ 7.7 |
| 輸出量 | 2.8 | 3.0 | 3.1 | 0.0 | 4.7 |
| 輸入量 | 0.9 | 0.9 | 1.0 | 0.0 | 4.3 |
| 期末在庫量 | 0.9 | 1.4 | 0.9 | ▲ 0.2 | ▲ 35.9 |
| 期末在庫率 | 13.2% | 18.8% | 12.4% | ▲ 2.5 | ▲ 6.4 |
| (参考) | | | | | |
| 収穫面積(百万ha) | 0.96 | 1.18 | 1.00 | - | ▲ 15.3 |
| 単収(もみt/ha) | 8.41 | 8.62 | 8.38 | ▲ 0.13 | ▲ 2.8 |

資料: USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(10 January 2020)

< インド >

【生育・生産動向】現地コンサルタントによれば、インド東部ではカリフ米の収穫が終了した。

南部及び南東部ではラビ米は圃場準備期から初期栄養生長期である。

インド農業省によると、1月3日時点でのラビ米の作付面積は1.6百万ヘクタールと前年同期(1.4百万ヘクタール)を上回っている。

USDAによれば、前月予測からの変更はなく、対前年度比1.2%減の115.0百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2019/20年度の輸出量は、インド国内における増産見通しと、タイの輸出量が減少する見込みから0.3百万トン上方修正され、対前年度比12.4%増の11.8百万トンと、6年連続で世界第1位の輸出国となる見込み。

インド食料公社によれば、前年度が豊作となったことから、1月時点の政府備蓄量は23.7百万トンと1月1日時点の備蓄必要量(7.6百万トン)を大きく上回っている。

米—インド

雨季をカリフ、乾季をラビと呼ぶ。北部はカリフ・ラビ(小麦)の二毛作、南部はカリフ・ラビの二期作。主にインディカを栽培

(単位:百万精米トン)

| 年 度 | 2017/18 | 2018/19 (見込み) | 2019/20 | | |
|------------|---------|------------------|---------------|---------------|----------------|
| | | | 予測値、()はIGC | 前月予測 からの変更 | 対前年度 増減率(%) |
| 生産量 | 112.8 | 116.4 | 115.0 (115.0) | - | ▲ 1.2 |
| 消費量 | 98.7 | 99.0 | 102.5 (102.4) | 0.5 | 3.5 |
| 輸出量 | 12.0 | 10.5 | 11.8 (11.2) | 0.3 | 12.4 |
| 輸入量 | 0.0 | 0.0 | 0.0 (0.0) | - | - |
| 期末在庫量 | 22.6 | 29.5 | 30.2 (29.7) | 0.7 | 2.4 |
| 期末在庫率 | 20.4% | 26.9% | 26.4% (26.2%) | 0.4 | ▲ 0.5 |
| (参考) | | | | | |
| 収穫面積(百万ha) | 43.77 | 43.80 | 43.50 (43.25) | - | ▲ 0.7 |
| 単収(もみt/ha) | 3.86 | 3.99 | 3.97 (2.66) | - | ▲ 0.5 |

資料: USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(10 January 2020)
IGC「Grain Market Report (21 November 2019)」(単収は精米t/ha)

<ベトナム>

【生育・生産動向】ベトナム統計局によれば、2019/20年度の冬春作の作付けは12月中旬時点で3.1百万ヘクタール、生産量は20.5百万トンの見込み。

なお、USDAによれば、2020年に収穫される2019/20年度の実産量は、前月予測からの変更はなく、対前年度比1.9%増の28.3百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2019/20年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、対前年度比2.2%増の7.0百万トンの見込み。

なお、同年1～12月の輸出量は、6.4百万トンと対前年同期比(5.9百万トン)で4.1%増となっている。その内訳は、フィリピン向けが33.6%を占める。前年度と比較して、フィリピン向けは2.4倍、コートジボワール向けは2.1倍、香港向けは1.4倍と伸びている。

< 中国 >

【生育・生産動向】2019/20年度の二期作晩稲及び一期作稲の収穫は終了した。

USDAによれば、2019/20年度の実産量は、前月予測から変更はなく、対前年度比1.2%減の146.7百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2019/20年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、対前年度比17.9%増の3.3百万トンの見込み。中国の安価な米輸出は、価格を重視するアメリカや中東の輸入国にとって魅力的となっている。

一方、輸入量は国内在庫の積み上がりから輸入ペースが減速しているため前月予測から0.1百万トン下方修正され、対前年度比11.1%減の2.4百万トンの見通しとなり、2009/10年度以来、10年ぶりに純輸出国となる見込み。

中国農業農村部の「農産品供需形勢分析月報」(12月分)によれば、早期インディカ、晩期インディカ、一期作ジャポニカ米の卸売価格(精米)は、それぞれ3,620元/トン、3,860元/トン、4,120元/トン。インディカ米価格は、インディカ米の新穀が市場に供給されたため下落。ジャポニカ米価格は雨や雪による輸送費コストの上昇により、価格は小幅ながら上昇。

米-ベトナム

北部で二期作、南部で二期作、三期作。主に長粒種、一部で短粒種も栽培

(単位:百万精米トン)

| 年 度 | 2017/18 | 2018/19 (見込み) | 2019/20 | | |
|------------|---------|------------------|---------------|---------------|----------------|
| | | | 予 測 値、()はIGC | 前月予測 からの変更 | 対前年度 増減率(%) |
| 生 産 量 | 27.7 | 27.8 | 28.3 (28.8) | - | 1.9 |
| 消 費 量 | 21.5 | 21.4 | 21.5 (22.6) | - | 0.7 |
| 輸 出 量 | 6.6 | 6.9 | 7.0 (6.6) | - | 2.2 |
| 輸 入 量 | 0.5 | 0.4 | 0.4 (0.4) | - | - |
| 期末在庫量 | 1.0 | 1.0 | 1.2 (3.5) | - | 20.0 |
| 期末在庫率 | 3.7% | 3.5% | 4.2% (11.8%) | - | 0.7 |
| (参考) | | | | | |
| 収穫面積(百万ha) | 7.65 | 7.62 | 7.67 (7.57) | - | 0.7 |
| 単収(もみt/ha) | 5.79 | 5.83 | 5.91 (3.81) | - | 1.4 |

資料: USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(10 January 2020)
IGC「Grain Market Report (21 November 2019)」(単収は精米t/ha)

米-中国

北部で一期作、南部で二期作。ジャポニカ(粳)米は東北地区、江蘇省等で栽培、生産シェアは3割程度

(単位:百万精米トン)

| 年 度 | 2017/18 | 2018/19 (見込み) | 2019/20 | | |
|------------|---------|------------------|---------------|---------------|----------------|
| | | | 予 測 値、()はIGC | 前月予測 からの変更 | 対前年度 増減率(%) |
| 生 産 量 | 148.9 | 148.5 | 146.7 (147.2) | - | ▲ 1.2 |
| 消 費 量 | 142.5 | 143.0 | 143.0 (143.5) | - | 0.0 |
| 輸 出 量 | 1.4 | 2.8 | 3.3 (3.6) | - | 17.9 |
| 輸 入 量 | 5.5 | 2.7 | 2.4 (3.0) | - | ▲ 11.1 |
| 期末在庫量 | 109.0 | 114.4 | 117.3 (114.1) | ▲ 0.1 | 2.5 |
| 期末在庫率 | 75.8% | 78.5% | 80.1% (77.6%) | ▲ 0.1 | 1.7 |
| (参考) | | | | | |
| 収穫面積(百万ha) | 30.75 | 30.19 | 29.69 (29.90) | - | ▲ 1.7 |
| 単収(もみt/ha) | 6.92 | 7.03 | 7.06 (4.92) | - | 0.4 |

資料: USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(10 January 2020)
IGC「Grain Market Report (21 November 2019)」(単収は精米t/ha)

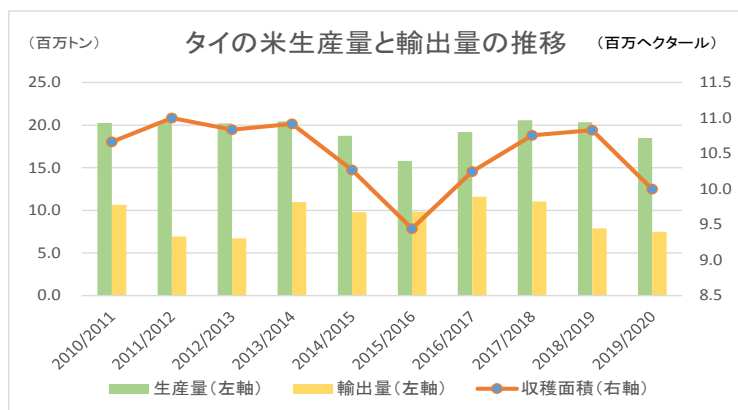
< タイ >

【生育・生産動向】USDAによれば、2019/20年度の生産量は、前年から引き続き、灌漑用貯水池の水不足により、タイ北部・中部で、乾季米（タイ米生産量の1/4を占める）の作付けが減少することから、前月予測から2.0百万トン下方修正され、対前年度比9%減の18.5百万トンの見込み。収穫面積は対前年度比7.7%減少、単収は対前年度比1.8%減少。USDA「World Agricultural Production」(2020.1.10)によれば、タイ北部・中部平野部向けの主要貯水池の貯水レベルは、過去最低水準となっている。このため、政府は、水の使用制限や、一部の県に対して、乾季作の作付けを控えるよう指示を出している。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2019/20年度の輸出量は、生産量が下方修正されたことから0.9百万トン下方修正され、対前年度比5.1%減の7.5百万トンの見込み。これは過去7年間で最も低い水準である。

2019年1～11月の輸出量は、ベトナム、インド、中国との競争激化、パーツ高等により、前年同期比30.4%減の7.1百万トンとなった。主な輸出先は、ベナン(106.4万トン)、南アフリカ(70.4万トン)、米国(51.6万トン)である。

2019年12月18日時点のタイ産米(100%2等)の輸出価格は444ドル/トンであったが、干ばつ影響によるタイ産米の減産見通しを受け、輸出価格は上昇し、2020年1月14日時点では468ドル/トンとなっている。



資料：USDA「PS&D」(2020.1.10)をもとに農林水産省にて作成

米-タイ

夏期の雨季作と冬期の乾季作で行われる。主にインディカを栽培

(単位:百万精米トン)

| 年 度 | 2017/18 | 2018/19 (見込み) | 2019/20 | | |
|-------|---------|------------------|---------------|---------------|----------------|
| | | | 予測値、()はIGC | 前月予測 からの変更 | 対前年度 増減率(%) |
| 生産量 | 20.6 | 20.3 | 18.5 (19.8) | ▲ 2.0 | ▲ 9.0 |
| 消費量 | 11.0 | 11.8 | 11.5 (11.0) | - | ▲ 2.5 |
| 輸出量 | 11.1 | 7.9 | 7.5 (9.0) | ▲ 0.9 | ▲ 5.1 |
| 輸入量 | 0.3 | 0.3 | 0.3 (0.3) | - | - |
| 期末在庫量 | 3.0 | 3.9 | 3.7 (4.3) | ▲ 0.9 | ▲ 6.4 |
| 期末在庫率 | 13.6% | 19.8% | 19.2% (21.6%) | ▲ 3.7 | ▲ 0.6 |

(参考)
 収穫面積(百万ha) 10.76 10.83 10.00 (10.80) ▲ 0.90 ▲ 7.7
 単収(もみt/ha) 2.90 2.85 2.80 (1.83) ▲ 0.05 ▲ 1.8
 資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
 「World Agricultural Production」(10 January 2020)
 IGC「Grain Market Report (21 November 2019)」(単収は精米t/ha)



写真 タイ中部スパンブリー県の水田
 地方政府から、水源の確保ができないため、雨季まで稲作を待つよう指示があった。写真の水田は、雑草に覆われている。(2019.12.29撮影)

II 油糧種子 大豆

(1) 国際的な需給の概要（詳細は右表を参照）

<米国農務省（USDA）の見通し>

2019/20 年度

生産量 前年度比 前月比

・米国で上方修正され、前月から上方修正された。

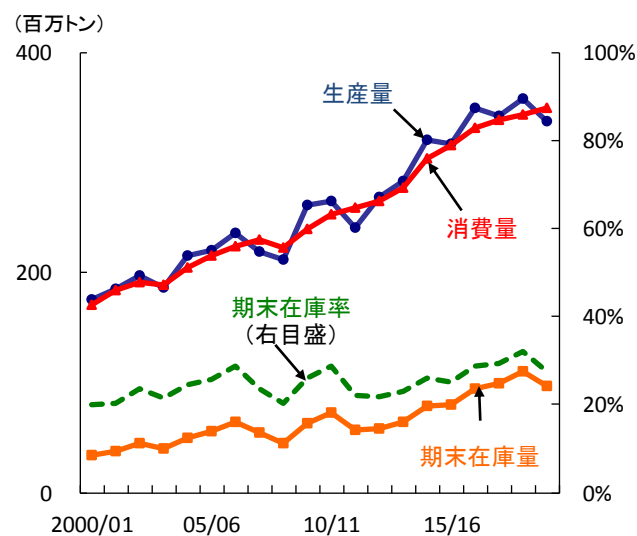
消費量 前年度比 前月比

・ブラジル等で下方修正も、中国等で上方修正され、前月から上方修正された。

輸出量 前年度比 前月比

・前月から修正なし。

期末在庫量 前年度比 前月比



資料：USDA「PS&D」(2020.1.10)をもとに農林水産省で作成。

◎世界の大豆需給

(単位:百万トン)

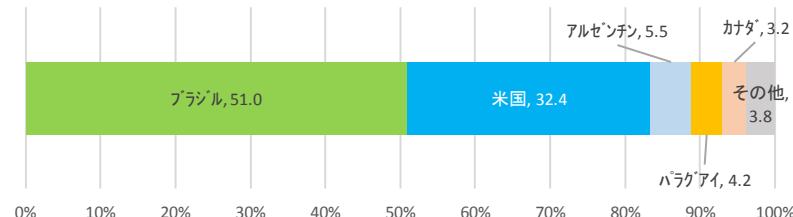
| 年 度 | 2017/18 | 2018/19 (見込み) | 2019/20 | | |
|-------|---------|------------------|---------|---------------|----------------|
| | | | 予測値 | 前月予測から の変更 | 対前年度 増減率(%) |
| 生産量 | 342.0 | 358.3 | 337.7 | 0.2 | ▲ 5.7 |
| 消費量 | 338.3 | 343.6 | 350.1 | 0.4 | 1.9 |
| うち搾油用 | 294.9 | 298.3 | 303.6 | 0.8 | 1.8 |
| 輸出量 | 153.1 | 149.2 | 149.2 | - | ▲ 0.0 |
| 輸入量 | 153.3 | 146.0 | 148.0 | 0.0 | 1.4 |
| 期末在庫量 | 98.9 | 110.3 | 96.7 | 0.3 | ▲ 12.3 |
| 期末在庫率 | 29.2% | 32.1% | 27.6% | 0.0 | ▲ 4.5 |

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(10 January 2020)

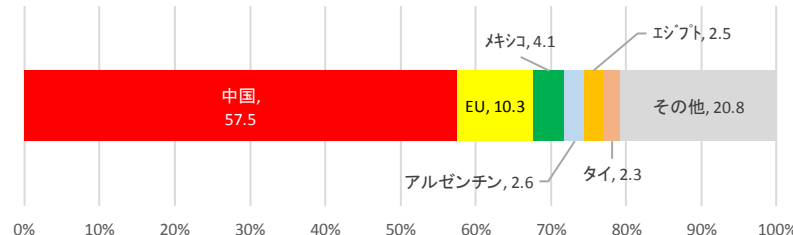
○ 2019/20 年度の世界の大豆の生産量(337.7 百万トン) (単位：%)



○ 2019/20 年度の世界の大豆の輸出量(149.2 百万トン)



○ 2019/20 年度の世界の大豆の輸入量(148.0 百万トン)



(2) 国別の大豆の需給動向

< 米国 >

【生育・生産状況】米国農務省（USDA）によれば、2019/20年度の生産量は、収穫面積が下方修正されたものの、単収がイリノイ州・インディアナ州等で上方修正されたことから前月予測から0.2百万トン上方修正され、対前年度比19.6%減の96.8百万トンの見込み。

中西部での降雨により作付け・生育が遅れた。中西部の北部では収穫されるべき大豆の一部が圃場に残された状況。

【貿易情報・その他】2019/20年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく48.3百万トンの見込み。USDA「Oilseeds:World Market and Trade」(2020.1.10)によると、1月2日までの輸出量（出荷量）は、中国向けが9.4百万トンと前年同時期の0.5百万トンに比べて大幅に伸びている。前年12月の中国政府による米国産大豆の一定数量の免税措置に続き、1月15日の米中通商協議一次合意の署名を受けて、中国向けを中心に輸出増が期待されている。

輸出検証高（2019年1月3日～2020年1月2日）は、50.6百万トンである。（下表参照）

米国の大豆輸出先国別輸出量（輸出検証高）（万トン）

| | 国名 | 輸出検証高 | | |
|---|------|---------|-------|-------|
| | | 2019年累計 | 11月 | 12月 |
| 1 | 中国 | 2225.1 | 494.9 | 180.4 |
| 2 | メキシコ | 476.5 | 38.3 | 26.2 |
| 3 | オランダ | 269.7 | 18.8 | 22.8 |
| | その他 | 2092.8 | 222.3 | 189.9 |
| | 計 | 5,064.2 | 774.2 | 419.3 |

注1:12月の輸出検証高は、12月12、19、26日及び2020年1月2日の合計

注2:累積輸出検証高は、2019年1月3日～2020年1月2日の合計
出典:USDA Federal Grain Inspection Service

大豆－米国

(単位:百万トン)

| 年 度 | 2017/18 | 2018/19 (見込み) | 2019/20 | | |
|-------|---------|------------------|---------|---------------|----------------|
| | | | 予測値 | 前月予測 からの変更 | 対前年度 増減率(%) |
| 生産量 | 120.1 | 120.5 | 96.8 | 0.2 | ▲ 19.6 |
| 消費量 | 58.9 | 60.5 | 60.8 | ▲ 0.0 | 0.4 |
| うち搾油用 | 55.9 | 56.9 | 57.3 | - | 0.6 |
| 輸 出 量 | 58.1 | 47.6 | 48.3 | - | 1.6 |
| 輸 入 量 | 0.6 | 0.4 | 0.4 | ▲ 0.1 | 7.9 |
| 期末在庫量 | 11.9 | 24.7 | 12.9 | - | ▲ 47.8 |
| 期末在庫率 | 10.2% | 22.9% | 11.8% | 0.0 | ▲ 11.0 |

(参考)

| | | | | | |
|------------|-------|-------|-------|--------|--------|
| 収穫面積(百万ha) | 36.24 | 35.45 | 30.36 | ▲ 0.25 | ▲ 14.4 |
| 単収(t/ha) | 3.31 | 3.40 | 3.19 | 0.03 | ▲ 6.2 |

資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(10 January 2020)

< ブラジル >

【生育・生産状況】USDAによれば、2019/20年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、史上最高の123.0百万トンの見込み。

なお、ブラジル食料供給公社(Conab)月例報告(2020.1.8)によれば、2019/20年度の実生産量は、前年度比6.3%増の122.2百万トンの見込み。

USDAによれば、1月12日から1月18日の間、ブラジルの中部・南部の主産地で、多くの降雨があり、土壌水分を補給し生育に良好な状況であった。また、乾燥と高温に悩まされた南部のリオグランデドスル州でも生育状況が改善した。同州では1月9日時点で、作付けが終了し、25%が開花期となっている。また、南部のパラナ州は1月20日時点で収穫進捗率が1%（前年同時期17%）と前年度より遅れているものの、品質は非常に良い状況。

【需給状況】USDAによれば、2019/20年度の消費量は、前月予測から0.3百万トン下方修正され、46.2百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2019/20年度の輸出量は、前月からの変更はなく、76.0百万トンの見込み。世界の大豆輸出量の約半分を占め、世界第1位の輸出国となる見込み。ブラジル貿易統計によると、2019年累計の輸出量は、74.0百万トンで、中国向けが最も多く、78.3%を占めている。

**写真 南部パラナ州の大豆
(前年12月31日撮影)**

この圃場では前年10月中旬に作付けされ、2月下旬に収穫予定。



大豆—ブラジル

(単位:百万トン)

| 年度 | 2017/18 | 2018/19 (見込み) | 2019/20 | | | |
|------------|---------|------------------|---------------|-----------|------------|--|
| | | | 予測値、()はOil.W | 前月予測からの変更 | 対前年度増減率(%) | |
| 生産量 | 122.0 | 117.0 | 123.0 (124.0) | - | 5.1 | |
| 消費量 | 46.5 | 44.7 | 46.2 (…) | ▲ 0.3 | 3.5 | |
| うち搾油用 | 44.2 | 42.5 | 43.8 (…) | - | 2.9 | |
| 輸出量 | 76.1 | 75.0 | 76.0 (…) | - | 1.4 | |
| 輸入量 | 0.2 | 0.1 | 0.2 (…) | ▲ 0.1 | 7.1 | |
| 期末在庫量 | 32.7 | 30.3 | 31.2 (…) | 0.8 | 3.0 | |
| 期末在庫率 | 26.7% | 25.3% | 25.5% (…) | 0.7 | 0.2 | |
| (参考) | | | | | | |
| 収穫面積(百万ha) | 35.15 | 35.90 | 36.90 (37.00) | - | 2.8 | |
| 単収(t/ha) | 3.47 | 3.26 | 3.33 (3.35) | - | 2.1 | |

資料: USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(10 January 2020)
OIL WORLD「OIL WORLD Monthly」(13 December 2019)

ブラジルのクロープカレンダー(中部から南部)

2019/20年度の大豆の作付けは、2019年9月以降、開始。

2020年2月以降に収穫が行われ、その後、一部圃場で冬とうもろこしを栽培予定。

ブラジルのクロープカレンダー(中部から南部)

| 2019/20年度 | 2019年 | | | | | | | | | | | | 2020年 | | | | | | | | |
|-----------|------------------|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|---------------------|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 |
| 夏とうもろこし | リオグランデスル州等 | | | | | | | | | | | | 収穫 26.6(百万t) | | | | | | | | |
| 冬とうもろこし | マトグロソ州、パラナ州等 | | | | | | | | | | | | 収穫 72.1(百万t) | | | | | | | | |
| 大豆 | 作付 4.2(百万ha) | | | | | | | | | | | | 作付 13.4(百万ha) | | | | | | | | |
| | 作付面積夏冬計 17.5百万ha | | | | | | | | | | | | 大豆収穫後一部圃場で冬とうもろこし播種 | | | | | | | | |
| | 作付 36.8(百万ha) | | | | | | | | | | | | 収穫 122.2(百万t) | | | | | | | | |

資料: Conab穀物レポート(2020.1.8)

大豆－アルゼンチン

(単位:百万トン)

| 年 度 | 2017/18 | 2018/19 (見込み) | 2019/20 | | | |
|------------|---------|------------------|--------------|---------------|----------------|--------|
| | | | 予測値、()はOil.W | 前月予測 からの変更 | 対前年度 増減率(%) | |
| 生産量 | 37.8 | 55.3 | 53.0 | (53.0) | - | ▲ 4.2 |
| 消費量 | 43.6 | 47.5 | 51.7 | (...) | - | 9.0 |
| うち搾油用 | 36.9 | 40.6 | 44.6 | (...) | - | 9.9 |
| 輸 出 量 | 2.1 | 9.1 | 8.2 | (...) | - | ▲ 9.9 |
| 輸 入 量 | 4.7 | 6.4 | 3.9 | (...) | - | ▲ 39.2 |
| 期末在庫量 | 23.7 | 28.9 | 25.9 | (...) | - | ▲ 10.4 |
| 期末在庫率 | 51.9% | 51.1% | 43.2% | (...) | - | ▲ 7.9 |
| (参考) | | | | | | |
| 収穫面積(百万ha) | 16.30 | 16.60 | 17.50 | (17.30) | - | 5.4 |
| 単収(t/ha) | 2.32 | 3.33 | 3.03 | (3.06) | - | ▲ 9.0 |

資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」
「World Agricultural Production」(10 January 2020)
OIL WORLD「OIL WORLD Monthly」(13 December 2019)

< アルゼンチン >

【生育・生産状況】USDAによれば、2019/20年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、53.0百万トンの見込み。1月中旬の降雨により中央部から北西部の乾燥していた地域の生育に恩恵をもたらした。

「ブエノスアイレス穀物取引所週報」(2020.1.23)によれば、2019/20年度の作付けに関して、作付予定面積は17.4百万ヘクタール、作付進捗率は97.6%となっている。

【需給状況】USDAによれば、2019/20年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、51.7百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、輸出量は、前月予測からの変更はなく、8.2百万トンの見込み。

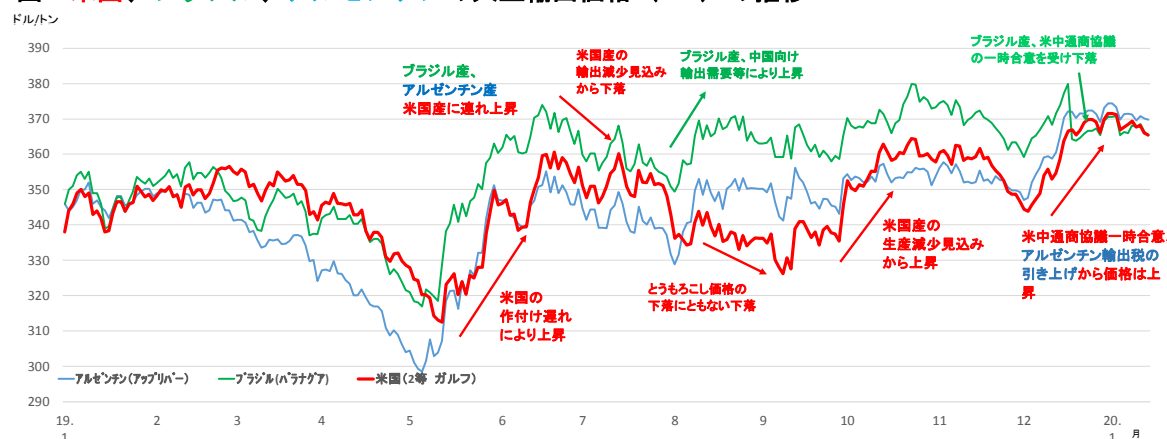
なお、アルゼンチンは、バイオディーゼル用大豆の搾油を行うため、大豆輸出量よりも、搾油後に発生する大豆加工品の輸出が多く、大豆粕については、世界第1位の輸出国である。報道によれば、フェルナンデス新政権は、2019年12月14日、財政赤字改善のため、穀物等に課している輸出税の引き上げを決定した。さらに、12月23日には輸出税を再度引き上げる内容を含む「社会連帯・生産性回復法」を施行した。この結果、大豆・大豆粕・大豆油の輸出税は、以前の約25%から30%、さらに33%へ引き上げられた。

写真 北部サンタフェ州の大豆(1月2日撮影)

この圃場では前年10月下旬に作付けされ、大豆は順調に生育している。



図: 米国、ブラジル、アルゼンチンの大豆輸出価格(FOB)の推移



資料: IGCのデータをもとに農林水産省にて作成

< 中国 >

【生産・生育状況】前年 12 月 6 日に公表された中国国家統計局のデータによれば、生産量は、前年度比 13.3%増となり史上最高の 18.1 百万トンの見込み。

2019/20 年度の収穫面積は、政府による大豆生産への高い補助金により農家の作付け意欲が増したことから 9.3 百万ヘクタールと対前年度比 10.6%増加した。

【需給動向】USDA によれば、生産量増加により、国内での供給が増加しても、中国国内における搾油用消費量は変わらず (85.0 百万トン)、期末在庫量は、前月予測から 0.4 百万トン下方修正され、19.7 百万トンとなる見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、輸入量は前月予測から変更はなく 85.0 百万トンの見込み。報道によれば、12 月 6 日、中国政府は、米国産大豆等に関し、一定数量の追加関税の免除を公表した。

中国の貿易統計によれば、2019 年 11 月の輸入量は 8.3 百万トンと、前年同月と比べ 2.9 百万トン増加した。なお、2019 年 1~11 月の累計輸入量は、79.0 百万トンであり、内訳は、ブラジル産 52.8 百万トン (67%)、米国産 13.9 百万トン (18%) である。

大豆—中国

(単位:百万トン)

| 年 度 | 2017/18 | 2018/19 (見込み) | 2019/20 | | |
|-------|---------|------------------|-------------|---------------|----------------|
| | | | 予測値、0はOil.W | 前月予測 からの変更 | 対前年度 増減率(%) |
| 生産量 | 15.3 | 16.0 | 18.1 (15.6) | - | 13.3 |
| 消費量 | 106.3 | 102.0 | 102.7 (…) | 0.5 | 0.7 |
| うち搾油用 | 90.0 | 85.0 | 85.0 (…) | 0.5 | - |
| 輸 出 量 | 0.13 | 0.12 | 0.13 (…) | - | 8.3 |
| 輸 入 量 | 94.1 | 82.5 | 85.0 (…) | - | 3.0 |
| 期末在庫量 | 23.1 | 19.5 | 19.7 (…) | ▲ 0.4 | 1.4 |
| 期末在庫率 | 21.7% | 19.1% | 19.2% (…) | ▲ 0.5 | 0.1 |

(参考)

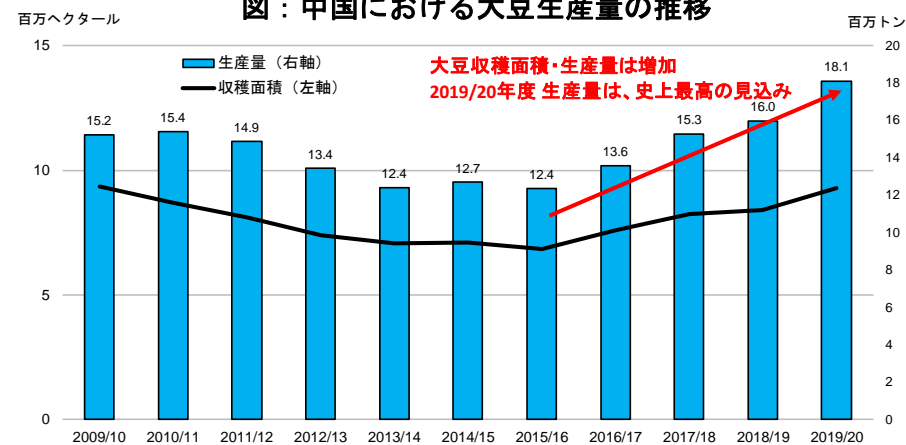
| | | | | | |
|------------|------|------|-------------|---|------|
| 収穫面積(百万ha) | 8.25 | 8.41 | 9.30 (8.24) | - | 10.6 |
| 単収(t/ha) | 1.85 | 1.90 | 1.95 (1.89) | - | 2.6 |

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、

「World Agricultural Production」(10 January 2020)

OIL WORLD 「OIL WORLD Monthly」(13 December 2019)

図：中国における大豆生産量の推移



資料: USDA 「PS&D」(2020.1.10)を元に農林水産省にて作成。

大豆－カナダ

(単位:百万トン)

< カナダ >

【生育・生産状況】カナダ農務農産食品省(AAFC)「Outlook for Principal Field Crops」(2020.1.23)によれば、2019/20年度の生産量は、対前年度比18.5%減の6.0百万トンの見込み。生育期に天候に恵まれず、収穫面積が減少した。さらに、特にカナダ西部で収穫時に悪天候となり、収穫ロスが発生した。

【需給状況】AAFCによれば、2019/20年度の搾油用消費量は、生産量減少と、搾油需要が一部なたねにシフトしているため、前年度(2.1百万トン)を下回る1.8百万トンの見込みである。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2019/20年度の輸出量は、中国向け輸出が好調であることから、前月予測から変更はなく、4.7百万トンの見込み。

| 年 度 | 2017/18 | 2018/19 (見込み) | 2019/20 | | |
|------------|---------|------------------|-------------|---------------|----------------|
| | | | 予測値、()はAAFC | 前月予測 からの変更 | 対前年度 増減率(%) |
| 生産量 | 7.7 | 7.3 | 6.0 (6.0) | - | ▲ 17.4 |
| 消費量 | 2.9 | 3.0 | 2.7 (2.3) | - | ▲ 9.5 |
| うち搾油用 | 1.9 | 2.1 | 1.9 (1.8) | - | ▲ 8.5 |
| 輸出量 | 4.9 | 5.3 | 4.7 (4.4) | - | ▲ 10.6 |
| 輸入量 | 0.5 | 1.2 | 0.9 (0.4) | - | ▲ 23.2 |
| 期末在庫量 | 0.6 | 0.8 | 0.4 (0.4) | - | ▲ 58.4 |
| 期末在庫率 | 8.1% | 10.2% | 4.7% (5.9%) | - | ▲ 5.5 |
| (参考) | | | | | |
| 収穫面積(百万ha) | 2.94 | 2.54 | 2.30 (2.27) | - | ▲ 9.4 |
| 単収(t/ha) | 2.63 | 2.86 | 2.61 (2.66) | - | ▲ 8.7 |

資料：USDA「PS&D」

「World Agricultural Production」(10 January 2020)

AAFC「Outlook for Principal Field Crops」(23 January 2020)

(参考)本レポートに使用されている各国の穀物年度について (2019/20年度)

| | 小麦 | とうもろこし | 米 | 大豆 |
|--------|---------------|--------------|--------------|--------------|
| 米国 | 19年6月～20年5月 | 19年9月～20年8月 | 19年8月～20年7月 | 19年9月～20年8月 |
| カナダ | 19年8月～20年7月 | | | 19年8月～20年7月 |
| 豪州 | 19年10月～20年9月 | | 20年3月～21年2月 | |
| EU | 19年7月～20年6月 | 19年10月～20年9月 | | |
| 中国 | 19年7月～20年6月 | 19年10月～20年9月 | 19年7月～20年6月 | 19年10月～20年9月 |
| ロシア | 19年7月～20年6月 | 19年10月～20年9月 | | 19年9月～20年8月 |
| ブラジル | | 20年3月～21年2月 | 20年4月～21年3月 | 19年10月～20年9月 |
| アルゼンチン | 19年12月～20年11月 | 20年3月～21年2月 | | 19年10月～20年9月 |
| タイ | | | 20年1月～12月 | |
| インド | 19年4月～20年3月 | | 19年10月～20年9月 | |
| ベトナム | | | 20年1月～12月 | |

注 市場年度は、おおむね各国で作物が収穫される時期を期首として各国ごとに設定されているため、国、作物によって年度の開始月は異なります。

例えば、2019/20年度は、米国の小麦では2019年6月～2020年5月、ブラジルのとうもろこしでは2020年3月～2021年2月です。

なお、各国別、作物別の市場年度は、米国農務省によります。

<https://apps.fas.usda.gov/psdonline/app/index.html#/app/downloads> (「Reference Data」タブを参照)

【利用上の注意】

海外食料需給レポートは、在外公館からの情報、農林水産省が独自に各国の現地コンサルタント等を通じて入手した情報、公的機関（各国政府機関、FAO、IGC等）の公表資料、Oil World等民間の調査会社から購入した資料、その他、商社情報や新聞情報等から入手した情報を農林水産省の担当者において検証、整理、分析したものです。

- **海外食料需給レポートで使用している統計数値は、主に米国農務省が2020年1月下旬までに発表した情報を引用しています。**

さらに詳細なデータ等が必要な場合は、米国農務省のホームページを参照願います。

http://www.usda.gov/wps/portal/usda/usdahome?navid=AGENCY_REPORTS

主な参考資料

「World Agricultural Supply and Demand Estimates」

<http://www.usda.gov/oce/commodity/wasde/>

「Grain : World Markets and Trade」

<https://www.fas.usda.gov/data/grain-world-markets-and-trade>

「Oilseeds : World Markets and Trade」

<https://www.fas.usda.gov/data/oilseeds-world-markets-and-trade>

「World Agricultural Production」

<https://www.fas.usda.gov/data/world-agricultural-production>

「PS&D」

<https://apps.fas.usda.gov/psdonline/app/index.html#/app/advQuery>

など

- **データは予測値であり、毎月各種データの更新を受けて改訂されますので留意してください。**
- 資料原典で表示されるブッシェル及びエーカー等の単位は、それぞれトン及びヘクタールに換算して記載しています。
- 資料原典において現地通貨で表示される金額を円換算するにあたっては、日本銀行国際局・財務大臣公示の基準外国為替相場及び裁定外国為替相場等の換算レートを用いています。
- 市場年度は、おおむね各国で作物が収穫される時期を期首として各国ごとに設定されているため、国、作物によって年度の開始月は異なります。
なお、各国別、作物別の市場年度は、米国農務省によります。

<https://apps.fas.usda.gov/psdonline/app/index.html#/app/downloads>

(注：同サイトの「Reference Data」を参照)

- 期末在庫率の対前年度増減率の欄は、前年度とのポイント差。なお、表示単位以下の数値により計算しているため、表上では合わない場合があります。
- 本資料の引用等につきましては、出所（農林水産省発行「海外食料需給レポート」）を併記願います。
- 本文中の略称については以下の通りです。

| | |
|--------|-------------|
| FAO | 国連食糧農業機関 |
| IGC | 国際穀物理事会 |
| USDA | 米国農務省 |
| AAFC | カナダ農務農産食品省 |
| ABARES | 豪州農業資源経済科学局 |
| CONAB | ブラジル食料供給公社 |
| JAXA | 宇宙航空研究開発機構 |
| ASF | アフリカ豚コレラ |

なお、生産見通し等の予測は、各国際機関及び各国の農業機関によりそれぞれの分析手法に基づき行われるため、機関によってデータの相違がある場合があります。また、各国の農業機関の公表を受けて、国際機関の見通しが改訂される場合があります。

- 本レポートの電子版は下記アドレスでご覧になれます。

農林水産省 海外食料需給レポート

http://www.maff.go.jp/j/zyukyu/jki/j_rep/index.html

- 本資料に関するご質問、ご意見等は、下記までお願いします。

| |
|--|
| 連絡先 農林水産省大臣官房政策課食料安全保障室 TEL：03-3502-8111 (内線 3805) |
|--|